

平成 21 年 12 月 21 日 判決言渡

平成 21 年（行ケ）第 10055 号 審決取消請求事件

平成 21 年 10 月 28 日 口頭弁論終結

判	決
原 告	X 株 式 会 社
被 告	株 式 会 社 友 企 画
訴訟代理人弁理士	曾 我 道 治
同	岡 田 稔
同	坂 上 正 明
主 文	

- 1 原告の請求を棄却する。
- 2 訴訟費用は原告の負担とする。

事 実 及 び 理 由

第 1 請 求

特許庁が無効 2008 - 890040 号事件について平成 21 年 2 月 16 日にした審決を取り消す。

第 2 争いのない事実

1 特許庁における手続の経緯

被告は、別紙 1 のとおり「ディベアー」及び「TEDDY BEAR」の文字を上下二段に横書きしてなり、指定商品を第 17 類「被服，布製身回品，寝具類」（平成 3 年政令第 299 号による改正前の区分）とする登録第 1953147 号商標（昭和 60 年 2 月 7 日登録出願，昭和 61 年 11 月 28 日登録査定，昭和 62 年 5 月 29 日設定登録，設定登録時の権利者は帝人株式会社，平成 9 年 5 月 27 日及び平成 18 年 12 月 26 日存続期間更新登録。以下「本件商標」という。）の商標権者である（被告は、本件商標に係る商標権の移転（譲渡）を受け、平成 13 年 11 月 26 日，移転登録を受けた。）。

原告は、平成20年5月21日、被告を被請求人とし、本件商標の商標登録が商標法4条1項7号の規定に違反してされたことを理由として、同法46条1項1号に基づき、本件商標の無効審判を請求した（無効2008-890040号）。

特許庁は、平成21年2月16日、「本件審判の請求は、成り立たない。」との審決（以下「審決」という。）をし、その謄本は、同月26日、原告に送達された。

2 審決の理由の要点

別紙審決書写しのとおりであり、要するに、本件商標は、商標法4条1項7号に該当せず、その商標登録は同号の規定に違反してされたものではないから、同法46条1項1号に基づいて本件商標の商標登録を無効にすることはできないとするものである。

審決の商標法4条1項7号該当性についての認定、判断の要点は、次のとおりである。

（１） 辞書等の記載によれば、「teddy bear」の語は、米国第26代大統領セオドア・ルーズベルトが1902年に狩猟中に一匹の小熊を追い詰めたが撃たずに助けたというエピソードに由来する語であり、英米では「独特の形をした小熊のぬいぐるみ」を意味する語として知られているものといえる。そして、「テディベアー」の語は、現在においては、我が国においても「独特の形をした小熊のぬいぐるみ」を意味する語として知られているといえるものの、上記のセオドア・ルーズベルトにまつわるエピソードについてはそれ程知られていないというべきである。

しかも、本件商標の登録出願時及び登録査定時の前後に我が国において出版された国語辞典等には「テディベアー」についての項目がなく、2008年（平成20年）に発行された辞典において初めて「テディー・ベア」の項目が掲載されたことからすると、本件商標の登録査定時には「テディベアー」

の語自体，我が国ではそれ程知られていなかったものと推認され，上記のセオドア・ルーズベルトにまつわるエピソードが一般に広く知られていたものとはいい難い。

仮に，「テディベアー」の語が「独特の形をした小熊のぬいぐるみ」を意味する語として認識されていたとしても，これを自己の商品について自由に使用できるのはせいぜい商品としての「ぬいぐるみ」についてであって，それ以外の商品については自他商品を識別する商標として誰でも選択・使用することができる状態にあったというべきである。

また，本件商標の登録出願時及び登録査定時において，「独特の形をした小熊のぬいぐるみ」が「teddy bear」，「テディベアー」として，例えば，米国を象徴する存在となっている，米国民の重要な文化的資産として認識されているなどの事実を示す証拠はない。

(2) 本件商標を構成する文字自体が非道徳的，卑わい，差別的，矯激若しくは他人に不快な印象を与えるようなものでないことは明らかであるし，他の法律等によってその使用が禁止されているものでもない。

そして，前記(1)の事情からすれば，本件商標が米国若しくは米国民を侮辱し，又は一般に国際信義に反するものとは認められないばかりでなく，本件商標の登録出願の経緯に社会的相当性を欠くものがあり，登録を認めることが商標法の予定する秩序に反するものとして到底容認し得ないということもできない。

したがって，本件商標は，公正な競争秩序又は公平の觀念に反するものではなく，公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがある商標とは認められない。

第3 取消事由に関する原告の主張

審決は，本件商標が商標法4条1項7号に該当せず，その商標登録は同号の規定に違反してされたものではないと判断した点に誤りがあるから，違法とし

て取り消されるべきである。その理由は、以下のとおりである。

1 商標法 4 条 1 項 7 号該当性の判断基準

商標法 4 条 1 項 7 号該当性は、「7 号に規定する『公序良俗』とは、一国におけるその時代の社会通念に従って、商標を指定商品又は指定役務に独占的に使用することが社会公共の利益に反するかどうかによって、取引の実情を通じて判断されるべき相対的な概念であり、また特定の国又は国民を侮辱するような商標や国際信義に反するような商標も、この規定に該当するものと解する」との見解にしたがった判断基準によるべきである。また、「商標法 4 条 1 項 7 号に該当する商標とは、商標の表示自体が公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあるものや、商標を使用することが社会公共の利益に反する場合に限定されるものではなく、それを採択し権利化する行為が穏当でなく、国際信義に反すると認められる場合においても、当該行為に係る商標は公正な取引秩序を乱し公の秩序を害するものに該当すると解しても差し支えないというべきである。」との見解を尊重すべきである。

2 被告又はそのライセンシーによる本件商標を用いた不正な販売方法

被告は、株式会社ドウシシャ（以下「ドウシシャ」という。）に本件商標の使用を許諾し、多額の使用料を得ている。ドウシシャは、「TEDDY BEAR」という文字を付した商品に「SINCE 1902」との文字を表示し、セオドア・ルーズベルトが小熊を助けたという逸話を連想させ、その商品が著名なセオドア・ルーズベルトに関係のあるような印象を与えてその販売を行っており、被告又はそのライセンシーは、不正な販売方法を採用している。

3 テディベア（「テディーベア」、「テディベアー」、「テディ・ベア」、「テディー・ベア」、「テディ・ベアー」を含む。以下、同じ。）の著名性

（１） 辞典，雑誌，書籍等の記載等

ア 英和辞典

（ア） 「teddy bear」（「Teddy Bear」、「TEDDY BEAR」など大文字を含

めた表記のものを含む。以下，同じ。)の項目が掲載された英和辞典は，次のとおりである。

「ユニコン英和辞典」 株式会社文英堂 2003年(平成15年)発行

「パーソナル英和辞典」第2版 株式会社学習研究社 2003年(平成15年)発行

「ワードパワー英英和辞典」 株式会社増進会出版社 2003年(平成15年)発行

「小学館 - ケンブリッジ英英和辞典」 株式会社小学館 2004年(平成16年)発行

「Eゲイト英和辞典」 株式会社ベネッセコーポレーション 2005年(平成17年)発行

「ルミナス英和辞典」第2版 株式会社研究社 2006年(平成18年)発行

「ロングマン英和辞典」 株式会社ピアソン・エデュケーション 2007年(平成19年)発行

「ニューヴィクトリーアンカー英和辞典」第2版 株式会社学習研究社 2007年(平成19年)発行

「エクスプレスEゲイト英和辞典」 株式会社ベネッセコーポレーション 2007年(平成19年)発行

「コンサイス英和辞典」第13版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)発行

「デイリーコンサイス英和・和英辞典」第6版 株式会社三省堂 2008年(平成20年)発行

「アンカーコズミカ英和辞典」 株式会社学習研究社 2008年(平成20年)発行

「ジュニア・アンカー英和辞典 英単語表つき」第4版 株式会社
学習研究社 2008年(平成20年)発行

「ジュニア・アンカー英和辞典」第4版 株式会社学習研究社 2
008年(平成20年)発行

「スーパー・アンカー英和辞典」第3版 株式会社学習研究社 2
008年(平成20年)発行

「ライトハウス英和辞典」第5版 株式会社研究社 2008年(平
成20年)発行

「teddy bear」の項目にセオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載
されている英和辞典は、次のとおりである。

「現代英和辞典」 株式会社研究社 1995年(平成7年)発行

「新グローバル英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2001年(平
成13年)発行

「小学館ランダムハウス英和大辞典」第2版 株式会社小学館 2
002年(平成14年)発行

「旺文社レクシス英和辞典」 株式会社旺文社 2003年(平成
15年)発行

21 「旺文社新英和中辞典」 株式会社旺文社 2003年(平成15
年)発行

22 「プログレッシブ英和中辞典」第4版 株式会社小学館 2005
年(平成17年)発行

23 「ユースプログレッシブ英和辞典」 株式会社小学館 2005年
(平成17年)発行

24 「フェイバリット英和辞典」第3版 東京書籍株式会社 2006
年(平成18年)発行

25 「ビーコン英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2006年(平成

- 18年)発行
- 26 「リーダーズ英和中辞典」 株式会社研究社 2006年(平成18年)発行
- 27 「ウィズダム英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)発行
- 28 「初級クラウン英和辞典」第11版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)発行
- 29 「グランドセンチュリー英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2008年(平成20年)発行
- 30 「ポケットプログレッシブ英和辞典」第3版 株式会社小学館 2008年(平成20年)発行
- 31 「アドバンストフェイバリット英和辞典」 東京書籍株式会社 2008年(平成20年)発行
- 32 「新英和中辞典」第7版 株式会社研究社 2008年(平成20年)発行
- 33 「ベーシックジーニアス英和辞典」 株式会社大修館書店 2008年(平成20年)発行
- 34 「ジーニアス英和辞典」第4版 株式会社大修館書店 2008年(平成20年)発行
- 35 「プラクティカルジーニアス英和辞典」 株式会社大修館書店 2008年(平成20年)発行
- 36 「オーレックス英和辞典」 株式会社旺文社 2008年(平成20年)発行
- 37 「アルファフェイバリット英和辞典」 東京書籍株式会社 2008年(平成20年)発行
- 38 「コアレックス英和辞典」 株式会社旺文社 2008年(平成20年)発行

0 年) 発行

(イ) 原告が調べた英和辞典において、「teddy bear」が掲載されていないものはなく、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載されているものは6割以上であった。したがって、「テディベア」の語やセオドア・ルーズベルトと小熊の逸話は、我が国においても周知であった。

イ 国語辞典等

(ア) 「テディベア」の項目が掲載されている国語辞典は、次のとおりである。

「大辞泉」 株式会社小学館 1995年(平成7年)発行

「大きな活字の三省堂国語辞典」第5版 株式会社三省堂 2001年(平成13年)発行

「日本国語大辞典」第2版 株式会社小学館 2001年(平成13年)発行

「大辞林」第3版 株式会社三省堂 2006年(平成18年)発行

「現代新国語辞典」第3版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)発行

「テディベア」の項目が掲載されているカタカナ語辞典は、次のとおりである。

「大きな活字のコンサイスカタカナ語辞典」 株式会社三省堂 1995年(平成7年)発行

「最新カタカナ用語『読む見る』事典」 株式会社講談社 1998年(平成10年)発行

「角川モバイル カタカナ語辞典」 株式会社角川書店 2000年(平成12年)発行

「カタカナ語・略語辞典」第3版 株式会社旺文社 2000年(平

成 12 年) 発行

「コンサiskカタカナ語辞典」第 2 版 株式会社三省堂 2000
年(平成 12 年) 発行

「日経新聞を読むためのカタカナ語辞典」 株式会社三省堂 20
01 年発行

「大きな字のカタカナ新語実用事典」 株式会社学習研究社 20
02 年(平成 14 年) 発行

「用例でわかるカタカナ新語辞典」第 6 版 株式会社学習研究社
2003 年(平成 15 年) 発行

「マスコミに強くなるカタカナ新語辞典」第 6 版 株式会社学習研
究社 2004 年(平成 16 年) 発行

「カタカナ外来語/略語辞典」全訂版 株式会社自由国民社 20
06 年(平成 18 年) 発行

「朝日新聞のカタカナ語辞典」 朝日新聞社 2006 年(平成 1
8 年) 発行

「用例でわかるカタカナ新語辞典」改訂第 2 版 株式会社学習研究
社 2007 年(平成 19 年) 発行

「大きな字のカタカナ新語辞典」第 2 版 株式会社学習研究社 2
009 年(平成 21 年) 発行

(イ) 日本人は、国語辞典を引く回数よりも英和辞典を引く回数が多く、
また、外来語は国語辞典ではなくカタカナ語辞典などの外来語辞典に収
録されているから、国語辞典に「テディベア」という語が掲載されてい
ないとしても、「テディベア」という語が知られていなかったとはいえ
ない。

ウ 雑誌

(ア) 「テディベア」に関する記載がある雑誌は、次のとおりである。

「ノンノ」通巻 285 号 株式会社集英社 昭和 58 年 10 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 294 号 株式会社集英社 昭和 59 年 3 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 296 号 株式会社集英社 昭和 59 年 4 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 312 号 株式会社集英社 昭和 59 年 12 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 317 号 株式会社集英社 昭和 60 年 3 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 325 号 株式会社集英社 昭和 60 年 7 月 20 日発行

「ノンノ」通巻 334 号 株式会社集英社 昭和 60 年 12 月 5 日発行

「anan」通巻 510 号 株式会社マガジンハウス 昭和 61 年 1 月 10 日発行

「メンズ ノンノ」第 1 巻第 7 号 株式会社集英社 昭和 61 年 12 月 1 日発行

「ノンノ」通巻 406 号 株式会社集英社 昭和 64 年 2 月 5 日発行

「オレンジページ」 平成 3 年 10 月 17 日発行

「ノンノ」通巻 473 号 株式会社集英社 平成 3 年 12 月 20 日発行

「DIME」23 号 株式会社小学館 平成 4 年 12 月 3 日発行

「ノンノ」通巻 495 号 株式会社集英社 平成 4 年 12 月 5 日発行

(イ) 雑誌は一般に発行日前に書店に並べられることから，上記のうち
ないし は本件商標の登録出願日（昭和 60 年 2 月 7 日）前に，更に
上記のうち ないし は本件商標の登録査定日（昭和 61 年 11 月 28
日）前に書店に並べられたものであり，上記の雑誌の紹介記事の内容か
ら，「テディベア」が若い世代に受け入れられていたことがうかがえる。
「ノンノ」は 120 万部発行され，300 万人ないし 500 万人がこれ
を見たと考えられる。

エ 新聞

1993 年（平成 5 年）11 月 3 日の毎日新聞には，テディベアについ
ての記事が掲載されており，1984 年（昭和 59 年）に東京に初のテデ
ィベア専門店が開店したことなどが記載されている。

オ 書籍

(ア) 本件商標の登録査定の前後に発行等された，テディベアをテーマ
とした童話・絵本，カタログ等，漫画は，次のとおりである。

a 童話・絵本

「英語のべんきょう テディの一日」 稲村松雄監修 株式会社
小学館 昭和 46 年 4 月 1 日発行

「くまのテディ・ロビンソン」ジョーン・G・ロビンソン著 福
音館書店 昭和 54 年（1979 年）5 月 20 日発行

「テディ・ロビンソン まほうをつかう」ジョーン・G・ロビン
ソン著 福音館書店 昭和 55 年（1980 年）9 月 30 日発行

「おやすみ，テディベア」赤川次郎著 株式会社光文社 昭和 5
7 年 11 月 25 日発行

「うみへ いこうよ」（テディベアのえほん 1）スザンナ・グレ
ッツ作 岩崎書店 昭和 59 年（1984 年）8 月 10 日発行

「ひっこし おおさわぎ」（テディベアのえほん 2）スザンナ・

グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)8月30日発行

「雨の日の うちゅうせんごっこ」(テディベアのえほん3)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)10月5日発行

「かいもの いっぱい」(テディベアのえほん4)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)10月30日発行

「おいしい おりょうり」(テディベアのえほん5)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)12月15日発行

「かぞえてみよう 1・2・3」(テディベアのえほん6)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)2月5日発行

「ABCであそぼう」(テディベアのえほん7)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)2月5日発行

「かぜ ひいちゃった」(テディベアのえほん8)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)3月5日発行

「おやすみ, テディ・ベア」(上) 赤川次郎著 株式会社角川書店 昭和60年12月25日発行

「おやすみ, テディ・ベア」(下) 赤川次郎著 株式会社角川書店 昭和60年12月25日発行

「おやすみ, テディ・ベア」(上) 赤川次郎著 株式会社光文社 昭和61年12月20日発行

「おやすみ, テディ・ベア」(下) 赤川次郎著 株式会社光文社 昭和61年12月20日発行

b カタログ等

「テディベア」 株式会社雄鶏社 昭和59年5月30日発行

「テディベアとかくれんぼ」 株式会社雄鷄社 昭和59年12月25日発行

「テディベアカタログ」 株式会社雄鷄社 昭和60年1月10日発行

「テディベアのワードローブ」 株式会社雄鷄社 昭和60年発行

c 漫画

「テディ・ベア」 あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和54年1月20日発行

「テディ・ベア」 あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和54年8月5日発行

「テディ・ベア」 あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和55年3月25日発行

「テディ・ベア」 あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和55年11月15日発行

「テディ・ベア」 あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和58年12月10日発行

「ベア」 赤川次郎原作 株式会社光文社 昭和58年11月発行

(イ) 本件商標の登録査定の前後に、テディベアをテーマとした童話・絵本、カタログ等、漫画が発行されていたことから、テディベアは、幼児、小中学生、若者を中心に広く知られていた。

カ レコード

本件商標の登録査定前に発売された次のレコードに収録された曲の題名及び歌詞には、「テディベア」という語が含まれていた。

「テディベアの頃 - 少女の香り - 」 株式会社キャニオン・レコード
昭和60年10月21日発売

「シニフィエ」 昭和５８年１０月２１日発売

これらのレコードは、当時若者に人気の高かった歌手、作詞者、作曲者によるものであった。

キ テレビ番組

前記オ(ア) a ないし の小説をテレビドラマ化した「赤川次郎のおやすみ、テディベア」という題名の作品が、ＴＢＳにより、昭和５８年８月９日放送された。

ク テディベア博物館等

平成２１年３月現在、我が国に、熊のぬいぐるみやテディベア関係の資料等を展示する博物館（テディベア博物館又はテディベア美術館など）が１２件存在し、テディベアの愛好家等により構成される日本テディベア協会（会員数３０００人、加盟店６１店、加盟企業４７社、加盟美術館１０件）が活動を行っている。

（２） 以上によれば、「テディベア」の語及びその由来であるセオドア・ルーズベルトの逸話は、本件商標の登録査定時に我が国において著名であった。

４ 被告の行為と国際信義

米国のセオドア・ルーズベルト協会は、セオドア・ルーズベルト元大統領の偉業を称えるために１９０７年に設立された公的団体である。原告は、米国のセオドア・ルーズベルト協会より、「日露戦争終結１００周年記念」のための記念品の製造、販売を依頼され、「ROOSEVELT TEDDY BEAR」との文字を付したタオル類の製造、販売を瀧定大阪株式会社（以下「瀧定大阪」という。）に委託したところ、被告が代理人弁護士を通じて、瀧定大阪に対し、本件商標及び別件商標（商標登録第５１１４４２５号）の商標権に基づき、商品販売中止と商品の破棄を求める内容証明郵便を送付し、瀧定大阪は、紛争を恐れ、商品のすべてを回収・破棄し、数千万円の損害が発生し、原告の得べかりし利益は失われ、原告の信用は毀損された。被告が、本件商標に係る商標権を有して

いることにより，米国のセオドア・ルーズベルト協会の活動を妨害し，得べかりし利益を失わせることは，国際信義に反する行為である。

セオドア・ルーズベルト協会は，「teddy bear」に対して知的財産権を有しており，原告は，同協会から「teddy bear」の名称等の使用許諾を受け，その許諾に基づく商品化の同意を得ており，原告が我が国で「Teddy Bear Roosevelt」，「Roosevelt Teddy Bear」，その他の関連商標の登録出願をすることにも同意を得ており，原告は，同協会の代理人の立場で，被告が本件商標に係る商標権に基づいて「テディベア」の語を独占することに反対している。

「テディベア」，「Teddy Bear」の名称は，セオドア・ルーズベルトと小熊の逸話に由来し，米国の誇る文化遺産といえるものであり，我が国においても広く親しまれているから，その使用を一私企業が独占することは，日米両国の公益を損なうおそれがあり，国際信義に反する。

5 「テディベア」の使用を独占させることの反社会性

セオドア・ルーズベルトが日露戦争の終結を仲裁したことから，セオドア・ルーズベルト協会は，平成１７年に日露戦争終結１００周年の記念行事を行ったものであり，セオドア・ルーズベルト及び同人にまつわる逸話から生まれたテディベアは，我が国との結びつきが強い。また，我が国には，前記３（１）クのとおり，日本テディベア協会，テディベア博物館（美術館）等があり，インターネットの「Amazon」で販売されているテディベアに関する商品は合計２０３件見出される。テディベアは，前記３のとおり，本件商標の登録査定時に既に著名であり，現在でも日本に定着しているから，被告が本件商標により「テディベア」という語の使用を独占することを認めるべきではない。

「teddy bear」（又は「Teddy bear」），「テディベア」（又は「テディベアー」）という語を商標として登録し，それを特定の商標権者が独占することは，セオドア・ルーズベルトの有名な逸話，又はテディベアの愛称をもつ小熊のぬいぐるみの人気や著名性に便乗し，又は誰もが自己の商品にその「テディベア」等

の名称を自由に使用できるという共通の認識を覆すことであり，公正な競争秩序又は公平の觀念に反する。

6 結論

以上のとおり，テディベアの著名性，被告又はそのライセンシーによる本件商標の不正な使用，国際信義への配慮等に照らすならば，「テディベア」の使用を被告に独占させるのは妥当でなく，本件商標は，商標法4条1項7号に該当すると解すべきである。したがって，本件商標が商標法4条1項7号に該当しないとした審決の判断には誤りがある。

第4 被告の反論

審決の認定，判断に誤りはなく，原告主張の取消事由は理由がない。

- 1 「teddy bear」の語の由来については，セオドア・ルーズベルトの逸話以外にも複数の説がある。小熊のぬいぐるみの人形は，ドイツの玩具会社シュタイフが「Bear PB55」として考案した。また，ヴィクトリア女王の長子であるエドワード7世（愛称「テッド」）がロンドンの動物園の熊に興味を示したのが「teddy bear」の語の由来であるとする説もある。セオドア・ルーズベルトの大統領在職期間，シュタイフによる「Bear PB55」の完成時期，米国内での熊のぬいぐるみの流行の時期が同じ時期に重なったことから，「teddy bear」の語の由来は，セオドア・ルーズベルトの逸話に特定することはできない。
- 2 「テディベア」，「テディベアー」の項目は，本件商標の登録出願時及び登録査定時の前後に我が国で発行された国語辞典及びカタカナ語辞典には掲載されておらず，2008年（平成20年）に発行された「広辞苑第6版」において初めて国語辞典に掲載された。国語辞典への言葉の掲載の有無は，言葉が社会に定着しているかどうかを勘案して決められる。そうすると，「テディベア」の語が，現在，我が国において，独特な形をした小熊のぬいぐるみを意味する語として知られているとしても，「テディベア」の語は，昭和61年の本件商標の登録査定時には我が国において知られておらず，社会に定着していなかった

たし、セオドア・ルーズベルトの逸話も、本件商標の登録査定時には我が国において知られておらず、現在でも我が国では知られていない。

- 3 「テディベア」という語によって表される独特な形をした小熊のぬいぐるみを最初に製作したのはドイツのシュタイフ社であり、同社は、見本市に出品する予定で、サーカスの熊にヒントを得て小熊のぬいぐるみを製作した。そして、「teddy bear」の語の由来には複数の説があり、セオドア・ルーズベルトの逸話に特定することはできない。したがって、「テディベア」は、米国の重要な文化的所産とはいえないし、米国を象徴する存在であるとはいえない。
- 4 原告は、セオドア・ルーズベルト協会は、「teddy bear」に対して知的財産権を有している旨主張するとともに、原告は、同協会から「teddy bear」の名称等の使用許諾を受け、その許諾に基づく商品化の同意を得ており、原告が「Teddy Bear Roosevelt」、「Roosevelt Teddy Bear」、その他の関連商標の登録出願を我が国の特許庁にすることにも同意を得ており、原告は、同協会の代理人の立場で、被告が本件商標に係る商標権に基づいて「テディベア」の語を独占することに反対していると主張する。

しかし、セオドア・ルーズベルト協会が「teddy bear」に対して有するという知的財産権の内容は明らかでなく、同協会が「teddy bear」の名称等に対して知的財産権を有するという主張は、誰もが自己の商品に「テディベア」等の名称を自由に使用できるという共通の認識があるという原告の主張と矛盾する。

- 5 「teddy bear」、「TEDDY BEAR」の文字は、米国において、セオドア・ルーズベルト協会以外の者によって、様々な指定商品について商標登録されており、同協会による出願、登録はない。「teddy bear」の文字は、米国大統領の愛称に準ずる名称であればそのイメージを損ないかねない「使い捨ておむつ」を指定商品としてさえ登録されており、「teddy bear」が米国民共通の財産として公的機関によって指定ないし保護されているとか、特定の個人がその名称を使用す

ることが米国政府によって制限されているという事実を示す証拠はない。

6 被告は、瀧定大阪に対し、代理人弁護士を通じて内容証明郵便を送付し、瀧定大阪との間で、解決金の支払と引換えに瀧定大阪に在庫の販売を一定期間認めることを合意した。瀧定大阪が商品のすべてを回収・破棄したことはない。

7 したがって、本件商標は商標法4条1項7号に該当せず、その商標登録は同号の規定に違反してされたものではない。

第5 当裁判所の判断

1 はじめに

商標法4条1項7号にいう「公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがある商標」については、当該商標の構成に、非道德的、卑わい、差別的、矯激若しくは他人に不快な印象を与えるような文字、図形等を含む商標が、これに該当することは明らかである。

また、当該商標の構成に、そのような文字、図形等を含まない場合であっても、当該商標を指定商品又は指定役務について使用することが、法律によって禁止されていたり、社会公共の利益に反し、社会の一般的道德的觀念に反していたり、特定の国若しくはその国民を侮辱したり、国際信義に反することになるなど特段の事情が存在するときには、当該商標は同法4条1項7号に該当すると解すべき余地がある。ただし、商標法は、同法4条1項7号の外に、同項各号の規定によって、公益との調整、既存の商標権者や既に同一又は類似の商標を使用している者との利益調整など、さまざまな政策的な観点から、登録されるべきでない商標を具体的かつ網羅的に列挙していること、公の秩序又は善良の風俗を害するか否かの判断は、社会通念によって変化し、客觀的に確定することが困難であること等に照らすならば、当該商標の構成それ自体ではなく、当該商標を使用することが、いわゆる公序良俗に反するとして同法4条1項7号に該当するとされる場合は、自ずから限定して解釈されるべきものといえよう。

特に、商標法4条1項15号、19号等の各規定が置かれている趣旨に照らすと、単に、他人の業務に係る商品や役務と混同を生ずるおそれがある場合、他人の業務に係る商品又は役務を表示するものとして日本国内又は外国における需要者の間に広く認識されている商標と同一又は類似の商標であって、不正の目的をもって使用をするもののような場合は、それぞれ同法4条1項15号、19号等に規定された各要件を充足するか否かによって、同法4条1項所定の不登録事由の成否を検討すべきであって、そのような事実関係が存在することをもって当然に同法4条1項7号の不登録事由に該当すると解するのは妥当とはいえない。

なお、同法4条1項7号所定の「公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがある商標」に該当するか否かの判断は、登録査定時（拒絶査定不服審判の審決時）を基準とすべきである。

上記の観点を前提として、本件商標の同法4条1項7号該当性について、検討する。

2 「テディベア」の語の意味及び逸話を理由とする本件商標の商標法4条1項7号該当性について

原告は、「テディベア」の語及びセオドア・ルーズベルトに関連する逸話は、本件商標の登録査定時（昭和61年11月28日）において、我が国で周知であったから、本件商標登録は、商標法4条1項7号に該当すると主張する。

しかし、以下の証拠（当審において提出された証拠を含む。）によっても、本件商標の登録査定時に、我が国において、「テディベア」の語及びセオドア・ルーズベルトに関連する逸話が一般に広く知られていたと認めることはできないから、原告の本件商標登録が、商標法4条1項7号に該当するとの原告の主張は、主張の前提を欠き、採用できない。

その理由は、以下のとおりである。

（１） 甲1ないし甲31（審判において提出された証拠）の記載等

ア 書籍（児童文学事典）

「英米児童文学辞典」（株式会社研究社 2001年（平成13年）4月第1版第1刷発行，甲2）の「teddy bear」の項には，「テディ・ベア（クマのぬいぐるみ）。この名はアメリカ大統領シオドア・ルーズベルト（Theodore Roosevelt, 1858-1919）が狩猟中にクマの子を見つけ，これを見逃してやったエピソードが1902年11月の『ワシントン・イブニング』（The Washington Evening）紙の漫画に載ったことから生まれた。子ども向けの本で最も有名なテディ・ベアは『クマのプーさん』（Winnie-the-Pooh）で，この場合はエドワード・ベアの愛称……」と記載されている。

「1902年11月にニューヨーク・タイムズ紙で紹介 それが『TEDDY BEAR』のはじまりです」との表題の書面（甲7）には，「テディベアの歴史」（翻訳文）として，「1902年11月，セオドア・ルーズベルト元大統領は友人達とミシシッピーに狩猟に出かけました。数時間も歩き回りましたが，野生動物にはなかなか遭遇しません。ついに，一行は一匹の小熊を追い詰め，取り囲みました。ガイドの一人が，ルーズベルト大統領にその熊を撃つよう促しましたが，彼はそれを拒否しました。このエピソードがルーズベルト元大統領の優しい行為として国中に広まりました。それからまもなくして，有名な風刺漫画家であるクリフォード・K・ベリーマンが，ルーズベルト大統領の熊を救ったエピソードを元に漫画にし，それを見たある店の主人が自分の店で熊のぬいぐるみを作って販売する事を思いつきました。彼は自分の店で販売するぬいぐるみに『テディベア』という名前を使わせてくれるようルーズベルト大統領に許可を求めました。現在この熊のぬいぐるみは『テディベア』として知られていますが，これがルーズベルト大統領の愛称，『テディ・ルーズベルト』にちなんで付けられた名前であることはあまり知られていません。」と記載されている。

イ 英和辞典

「ジーニアス英和辞典《改訂版》2色刷」(株式会社大修館書店 1999年(平成11年)4月1日改訂版6版発行, 甲3)の「Teddy」の項には,「《愛称》テディー(Theodore). ~ bear [しばしばt ~](縫いぐるみの)クマの人形《 米国の第26代大統領 Theodore Roosevelt(《愛称》Teddy)が猟で子グマを助けた漫画から;英米の子供はたいていこの種のものを1つは持っている》.」と記載されている。

「小学館ランダムハウス英和大辞典」(株式会社小学館 1998年(平成10年)1月10日第2版第6刷発行, 甲4)の「teddy bear」の項には「1縫いぐるみのクマ. . . BEAR² 10 [1907.米;Theodore Rooseveltの別称 *Teddy* にちなむ;狩猟中, 彼は子グマの命を助けてやったといわれることから]」と記載されている。

ウ 国語辞典等

(ア) 以下の国語辞典等には,「テディベア」の項目は掲載されていない。

「新潮現代国語辞典」 株式会社新潮社 昭和60年11月10日第1版第1刷発行(甲22)

「岩波国語辞典」第4版 株式会社岩波書店 1986年(昭和61年)10月8日第4版第1刷発行(甲21)

「旺文社国語辞典」 株式会社旺文社 1986年(昭和61年)10月20日改訂新版発行(甲23)

「マスコミに強くなるカタカナ新語辞典」 株式会社学習研究社 1987年(昭和62年)7月20日第7刷発行(甲24)

「ど忘れカタカナ語辞典」 教育図書株式会社 昭和63年2月10日4版発行(甲26)

「国際化社会に役だつ最新カタカナ語辞典」 有紀書房 1989

年（平成元年）５月２日発行（甲２５）

「広辞苑第５版」 株式会社岩波書店 １９９８年（平成１１年）

１１月１１日第５版第１刷発行（甲２７）

（イ） 「広辞苑第６版」(株式会社岩波書店 ２００８年（平成２０年）
１月１１日第６版第１刷発行，甲２８）には，「テディー・ベア」の項目が掲載され，「熊のぬいぐるみの一種。テディーは，狩猟好きのアメリカ大統領トルーズヴェルト（愛称テディー）が木につながれた小熊の命を助けたという〔ワシントンポスト〕紙の漫画に因む名。」と記載されている。

（２） 甲３２ないし甲６５，乙１ないし乙１１（当審で提出された証拠）の記載等

テディベアに関する記載等のある辞書，雑誌，新聞，書籍，レコード，テレビ番組，及び熊のぬいぐるみ等を展示するテディベア博物館の状況等は，次のとおりである。

ア 英和辞典

甲３７の１，甲３７の２によれば，以下の英和辞典には，「teddy bear」の項目が掲載されていることが認められる。

「ユニコン英和辞典」 株式会社文英堂 ２００３年（平成１５年）
３月１日初版第３刷発行

「パーソナル英和辞典」第２版 株式会社学習研究社 ２００３年（平成１５年）３月１０日第２版発行

「ワードパワー英英和辞典」 株式会社増進会出版社 ２００３年（平成１５年）３月１０日初版第４刷発行

「小学館－ケンブリッジ英英和辞典」 株式会社小学館 ２００４年（平成１６年）４月１日初版第１刷発行

「Ｅゲイト英和辞典」 株式会社ベネッセコーポレーション ２００

5 年（平成 17 年）12 月初版第 12 刷発行

「ルミナス英和辞典」第 2 版 株式会社研究社 2006 年（平成 18 年）12 月第 2 版第 3 刷発行

「ロングマン英和辞典」 株式会社ピアソン・エデュケーション 2007 年（平成 19 年）2 月 1 日初版第 1 刷発行

「ニューヴィクトリーアンカー英和辞典」第 2 版 株式会社学習研究社 2007 年（平成 19 年）2 月 1 日第 3 刷発行

「エクスプレス E ゲイト英和辞典」 株式会社ベネッセコーポレーション 2007 年（平成 19 年）3 月初版発行

「コンサイス英和辞典」第 13 版 株式会社三省堂 2007 年（平成 19 年）11 月 10 日第 13 版第 8 刷発行

「デイリーコンサイス英和・和英辞典」第 6 版 株式会社三省堂 2008 年（平成 20 年）1 月 20 日第 6 版第 5 刷発行

「アンカーコズミカ英和辞典」 株式会社学習研究社 2008 年（平成 20 年）1 月 25 日初版発行

「ジュニア・アンカー英和辞典 英単語表つき」第 4 版 株式会社学習研究社 2008 年（平成 20 年）2 月 23 日第 4 版第 4 刷発行

「ジュニア・アンカー英和辞典」第 4 版 株式会社学習研究社 2008 年（平成 20 年）2 月 23 日第 4 版第 7 刷発行

「スーパー・アンカー英和辞典」第 3 版 株式会社学習研究社 2008 年（平成 20 年）2 月 23 日第 3 版第 6 刷発行

「ライトハウス英和辞典」第 5 版 株式会社研究社 2008 年（平成 20 年）3 月第 5 版第 4 刷発行

甲 37 の 1，甲 37 の 3 によれば，以下の英和辞典には，「teddy bear」の項目に，セオドア・ルーズベルトに関する逸話又は「teddy bear」の語がセオドア・ルーズベルトの愛称に由来する旨が掲載されていることが認

められる。

「現代英和辞典」 株式会社研究社 1995年(平成7年)第22刷発行

「新グローバル英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2001年(平成13年)2月20日第2版第2刷発行

「小学館ランダムハウス英和大辞典」第2版 株式会社小学館 2002年(平成14年)1月10日第2版第9刷発行

「旺文社レクシス英和辞典」 株式会社旺文社 2003年(平成15年)重版発行

21 「旺文社新英和中辞典」 株式会社旺文社 2003年(平成15年)重版発行

22 「プログレッシブ英和中辞典」第4版 株式会社小学館 2005年(平成17年)2月20日第4版第3刷発行

23 「ユースプログレッシブ英和辞典」 株式会社小学館 2005年(平成17年)5月10日初版第3刷発行

24 「フェイバリット英和辞典」第3版 東京書籍株式会社 2006年(平成18年)2月20日第3版第2刷発行

25 「ビーコン英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2006年(平成18年)12月10日第2版第4刷発行

26 「リーダーズ英和中辞典」 株式会社研究社 2006年(平成18年)12月第1版第4刷発行

27 「ウィズダム英和辞典」第2版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)1月10日第2版第1刷発行

28 「初級クラウン英和辞典」第11版 株式会社三省堂 2007年(平成19年)12月10日第11版第5刷発行

29 「グランドセンチュリー英和辞典」第2版 株式会社三省堂 200

8 年（平成 20 年）1 月 10 日第 2 版第 7 刷発行

30 「ポケットプログレッシブ英和辞典」第 3 版 株式会社小学館 2008 年（平成 20 年）2 月 2 日第 3 版第 1 刷発行

31 「アドバンストフェイバリット英和辞典」 東京書籍株式会社 2008 年（平成 20 年）2 月 28 日初版第 5 刷発行

32 「新英和中辞典」第 7 版 株式会社研究社 2008 年（平成 20 年）2 月第 7 版第 6 刷発行

33 「ベーシックジーニアス英和辞典」 株式会社大修館書店 2008 年（平成 20 年）4 月 1 日初版第 6 刷発行

34 「ジーニアス英和辞典」第 4 版 株式会社大修館書店 2008 年（平成 20 年）4 月 1 日第 4 版第 3 刷発行

35 「プラクティカルジーニアス英和辞典」 株式会社大修館書店 2008 年（平成 20 年）4 月 1 日初版第 4 刷発行

36 「オーレックス英和辞典」 株式会社旺文社 2008 年（平成 20 年）10 月 7 日初版発行

37 「アルファフェイバリット英和辞典」 東京書籍株式会社 2008 年（平成 20 年）11 月 28 日初版第 1 刷発行

38 「コアレックス英和辞典」 株式会社旺文社 2008 年（平成 20 年）重版発行

イ 国語辞典

以下の国語辞典には、「テディベア」の項目が掲載されていることが認められる。なお、下記 , , には、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載されており , , には、「テディ（ー）」がセオドア・ルーズベルトの愛称である旨が記載されていることが認められる。

「大辞泉」 株式会社小学館 1995 年（平成 7 年）12 月 1 日第 1 版第 1 刷発行（甲 45 の 1）

「大きな活字の三省堂国語辞典」第5版 株式会社三省堂 2001年（平成13年）5月1日第5版第1刷発行（甲45の2）

「日本国語大辞典」第2版 株式会社小学館 2001年（平成13年）9月20日第2版第9巻第1刷発行（甲45の3）

「大辞林」第3版 株式会社三省堂 2006年（平成18年）10月27日第3版第1刷発行（甲45の4）

「現代新国語辞典」第3版 株式会社三省堂 2007年（平成19年）11月10日第3版第1刷発行（甲45の5）

ウ カタカナ語辞典

以下のカタカナ語辞典には、「テディベア」の項目が掲載されていることが認められる。

「大きな活字のコンサイスカタカナ語辞典」 株式会社三省堂 1995年（平成7年）5月10日初版第2刷発行（甲46の2）

「最新カタカナ用語『読む見る』事典」 株式会社講談社 1998年（平成10年）3月2日第1刷発行（甲46の6）

「角川モバイル カタカナ語辞典」 株式会社角川書店 2000年（平成12年）3月25日初版発行（甲46の7）

「カタカナ語・略語辞典」第3版 株式会社旺文社 2000年（平成12年）8月25日第3版発行（甲46の4）

「コンサイスカタカナ語辞典」第2版 株式会社三省堂 2000年（平成12年）9月10日第2版第1刷発行（甲46の1）

「日経新聞を読むためのカタカナ語辞典」 株式会社三省堂 2001年（平成13年）4月10日第1刷発行（甲46の8）

「大きな字のカタカナ新語実用事典」 株式会社学習研究社 2002年（平成14年）6月25日初版発行（甲46の9）

「用例でわかるカタカナ新語辞典」 株式会社学習研究社 2003

年（平成１５年）３月２４日初版発行（甲４６の１０）

「マスコミに強くなるカタカナ新語辞典」第６版 株式会社学習研究社 ２００４年（平成１６年）３月２２日第６版発行（甲４６の３）

「カタカナ外来語／略語辞典」全訂第３版 株式会社自由国民社 ２００６年（平成１８年）４月１０日全訂第３版発行（甲４６の５）

「朝日新聞のカタカナ語辞典」 朝日新聞社 ２００６年（平成１８年）８月３０日第１刷発行（甲４６の１３）

「用例でわかるカタカナ新語辞典」改訂第２版 株式会社学習研究社 ２００７年（平成１９年）２月１日改訂第２版発行（甲４６の１１）

「大きな字のカタカナ新語辞典」第２版 株式会社学習研究社 ２００９年（平成２１年）１月１９日第２版発行（甲４６の１２）

エ 雑誌

以下の雑誌には、「テディベア」に関する記載があることが認められる。

「ノンノ」通巻２８５号 株式会社集英社 昭和５８年１０月２０日発行（甲４９の１）

「ノンノ」通巻２９４号 株式会社集英社 昭和５９年３月２０日発行（甲４９の２）

「ノンノ」通巻２９６号 株式会社集英社 昭和５９年４月２０日発行（甲４９の３）

「ノンノ」通巻３１２号 株式会社集英社 昭和５９年１２月２０日発行（甲４９の４）

「ノンノ」通巻３１７号 株式会社集英社 昭和６０年３月２０日発行（甲４９の５）

「ノンノ」通巻３２５号 株式会社集英社 昭和６０年７月２０日発行（甲４９の６）

「ノンノ」通巻３３４号 株式会社集英社 昭和６０年１２月５日発

行（甲４９の７）

「an an」通巻５１０号 株式会社マガジンハウス 昭和６１年
１月１０日発行（甲４９の８）

「メンズ ノンノ」第１巻第７号 株式会社集英社 昭和６１年１２
月１日発行（甲４９の９）

「ノンノ」通巻４０６号 株式会社集英社 昭和６４年２月５日発行
（甲４９の１０）

「オレンジページ」 平成３年１０月１７日発行（甲４９の１１）

「ノンノ」通巻４７３号 株式会社集英社 平成３年１２月２０日発
行（甲４９の１２）

「DIME」２３号 株式会社小学館 平成４年１２月３日発行（甲
４９の１３）

「ノンノ」通巻４９５号 株式会社集英社 平成４年１２月５日発行
（甲４９の１４）

オ 新聞

１９９３年（平成５年）１１月３日の毎日新聞には、テディベアについ
ての記事が掲載されており、平成５年４月にテディベアの愛好者らにより
日本テディベア協会が設立されたこと、テディベアという名は米国第２６
代大統領セオドア・ルーズベルトの愛称にちなんで名付けられたこと、１
９８４年（昭和５９年）に東京に初のテディベア専門店が開店したことな
どが記載されている（甲４８の１，甲４８の２）。

カ 書籍

（ア） 童話・絵本

小熊のぬいぐるみ又はそれと同様の形態の登場者等を「テディベア」
又は「テディ」として表した童話・絵本の書籍で、本件商標の登録査定
前及び登録査定直後に発行されたものは、次のとおりであることが認め

られる。

「英語のべんきょう テディの一日」稲村松雄監修 株式会社小学館 昭和46年4月1日発行(甲59の1)

「くまのテディ・ロビンソン」ジョーン・G・ロビンソン著 福音館書店 昭和54年(1979年)5月20日初版発行(甲59の2)

「テディ・ロビンソン まほうをつかう」ジョーン・G・ロビンソン著 福音館書店 昭和55年(1980年)9月30日初版発行(甲59の3)

「おやすみ, テディベア」赤川次郎著 株式会社光文社 昭和57年11月25日初版第1刷発行(甲59の4)

「うみへ いこうよ」(テディベアのえほん1)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)8月10日第1刷発行(甲59の6)

「ひっこし おおさわぎ」(テディベアのえほん2)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)8月30日第1刷発行(甲59の7)

「雨の日の うちゅうせんごっこ」(テディベアのえほん3)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)10月5日第1刷発行(甲59の8)

「かいもの いっぱい」(テディベアのえほん4)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)10月30日第1刷発行(甲59の9)

「おいしい おりょうり」(テディベアのえほん5)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和59年(1984年)12月15日第1刷発行(甲59の10)

「かぞえてみよう 1・2・3」(テディベアのえほん6)スザンナ

・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)2月5日第1刷発行(甲59の14)

「ABCであそぼう」(テディベアのえほん7)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)2月5日第1刷発行(甲59の13)

「かぜ ひいちゃった」(テディベアのえほん8)スザンナ・グレッツ作 岩崎書店 昭和60年(1985年)3月5日第1刷発行(甲59の15)

「おやすみ, テディ・ベア」(上)赤川次郎著 株式会社角川書店 昭和60年12月25日初版発行(甲59の17)

「おやすみ, テディ・ベア」(下)赤川次郎著 株式会社角川書店 昭和60年12月25日初版発行(甲59の18)

「おやすみ, テディ・ベア」(上)赤川次郎著 株式会社光文社 昭和61年12月20日初版1刷発行(甲59の19)

「おやすみ, テディ・ベア」(下)赤川次郎著 株式会社光文社 昭和61年12月20日初版1刷発行(甲59の20)

(イ) カタログ等

テディベアのぬいぐるみの写真やぬいぐるみの作り方を掲載したカタログで、本件商標の登録査定前に発行されたものは、次のとおりであることが認められる。

「テディベア」株式会社雄鶏社 昭和59年5月30日再版発行(甲59の5)

「テディベアとかくれんぼ」株式会社雄鶏社 昭和59年12月25日発行(甲59の11)

「テディベアカタログ」株式会社雄鶏社 昭和60年1月10日発行(甲59の12)

「テディベアのワードローブ」株式会社雄鶏社 昭和60年発行(甲
59の16)

(ウ) 漫画

テディベアが登場する漫画で、本件商標の登録査定前に発行されたものは、次のとおりであることが認められる。

「テディ・ベア」あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和54年1月20日初版発行(甲60の1)

「テディ・ベア」あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和54年8月5日初版発行(甲60の2)

「テディ・ベア」あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和55年3月25日初版発行(甲60の3)

「テディ・ベア」あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和55年11月15日初版発行(甲60の4)

「テディ・ベア」あしべゆうほ作 株式会社秋田書店 昭和58年12月10日初版発行(甲60の5)

「ベア」赤川次郎原作 株式会社光文社 昭和58年11月発行(甲60の6)

キ レコード

本件商標の登録査定前に発売された次のレコードに収録された曲の題名及び歌詞には、「テディベア」という語が含まれていたことが認められる。

「テディベアの頃 - 少女の香り -」 株式会社キャニオン・レコード 昭和60年10月21日発売(甲61の1)

「シニフィエ」 昭和58年10月21日発売(甲62)

ク テレビ番組

前記カ(ア) ないし の小説をテレビドラマ化した「赤川次郎のおやすみ、テディベア」という題名の作品が、TBSにより、昭和58年8月9

日放送された（甲６３）。

ケ テディベア博物館等

インターネット記事（甲４０の１ないし甲４０の１３）によれば，平成２１年３月現在，我が国に，熊のぬいぐるみやテディベア関係の資料等を展示する博物館（テディベア博物館又はテディベア美術館など）が１２件存在することが認められ，甲３９によれば，テディベアの愛好家等により構成される日本テディベア協会は，平成５年４月設立され，平成１８年１２月現在，その会員数は約３０００人，加盟店は６１店，加盟企業は４７社，加盟美術館は１０件と発表されていることが認められる。

コ テディベアに関する他の逸話の紹介

乙１には，「teddy bear」と呼ばれる独特の形をした小熊のぬいぐるみは，ドイツの玩具会社シュタイフに由来するという説があること，「teddy bear」の語の由来については，セオドア・ルーズベルトの逸話の他にも，イギリスのヴィクトリア女王の長子エドワード７世（愛称「テッド」）がロンドンの動物園の熊に興味を示したことに由来するという説があることが紹介されている。

（３） 事実認定

上記各証拠の記載等を総合すれば，登録査定時における我が国の「テディベア」についての一般的な認識は，以下のとおりである。

ア 本件商標の登録査定前後の登録査定に近接した時期に発行された国語辞典等には，「テディベア」の項目は存在しない（国語辞典，カタカナ語辞典に「テディベア」の項目が掲載されたのは，平成７年が最初である。）。

そうすると，我が国において，本件商標の登録査定時（昭和６１年１１月２８日），「テディベア」との語が，独特の形をした小熊のぬいぐるみを指すことが一般的に認識されていたとは認められない。また，「teddy bear」の語の由来とされるセオドア・ルーズベルトの逸話も，本件商標の登録査

平成7年以降に発行された国語辞典に、「テディベア」の項目が掲載され、その由来について説明の記載されたものがあったとしても、そのことによって、本件商標の登録査定時、我が国において「テディベア」の語が広く知られていたと認めることはできない。のみならず、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載されている英和辞典が存在したとしても、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が広く知られていたことを認めることはできない。

- 33 -

ア」の放送は，昭和５８年８月９日の１回にとどまる。前記（２）ケによれば，平成２１年３月現在，我が国に，熊のぬいぐるみやテディベア関係の資料等を展示する博物館（テディベア博物館又はテディベア美術館など）が１２件存在することが認められるが，それらの設立年月日は明らかではなく，これらが，本件商標の登録査定時に存在したことを認めるに足りる証拠はない。また，甲３９によれば，日本テディベア協会は，テディベア美術館等をも構成員とするものであり，その設立は平成５年４月であることが認められる。

また，テディベアに関する記載等のある雑誌，書籍，レコード，テレビ番組等のうち，セオドア・ルーズベルトの逸話が紹介されたものは，雑誌４点（甲４９の４，甲４９の１０，甲４９の１１，甲４９の１２），カタログ３点（いずれも株式会社雄鶏社のカタログ。甲５９の５，甲５９の１２，甲５９の１６）である。

ウ 前記(2)の辞書，雑誌，新聞，書籍，レコード，テレビ番組，テディベア博物館等と，「広辞苑第６版」（２００８年（平成２０年）１月１１日第６版第１刷発行，甲２８）に「テディー・ベア」の項目が掲載されていること（前記(1)ウ(イ)）を併せ考えると，現在においては，我が国においても，「テディベア」との語は，独特の形をした小熊のぬいぐるみを意味する語として相当程度知られていると認められる余地がある。そして，前記(2)エ，カ，キ，クによれば，本件商標の登録査定前に，テディベアに関する記載等のある雑誌，書籍，レコード，テレビ番組等があったことは認められる。

しかし，これらの本件商標の登録査定前のテディベアに関する記載等のある雑誌，書籍，レコード，テレビ番組等は，いずれもその発行部数，発売数，放送回数等が特に多かったことを認めるに足りる証拠はなく，前記のとおり，そのうちのいくつかは，特定の雑誌であり又は同一作者の一連

のシリーズであるなど、むしろある程度限られた範囲のものと推認される。

エ 甲 3 7 の 2 中のロングマン英和辞典（株式会社ピアソン・エデュケーション 2007 年（平成 19 年）2 月 1 日初版第 1 刷発行）、ルミナス英和辞典第 2 版（株式会社研究社 2006 年（平成 18 年）12 月第 2 版第 3 刷発行）には、「teddy bear」の写真が掲載されている。また、甲 3 7 の 1 ないし 3 によれば、平成 7 年以降に発行された英和辞典（平成 7 年 1 件、平成 13 年 1 件、平成 14 年 1 件、平成 15 年 5 件、平成 16 年 1 件、平成 17 年 3 件、平成 18 年 4 件、平成 19 年 6 件、平成 20 年 16 件）の多くには、「teddy bear」の項目が掲載されており、「teddy bear」の項目に、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載されているものも存在することが認められる。

これらの英和辞典の記載によれば、少なくとも英米において、「teddy bear」の語は、一般に独特の形をした小熊のぬいぐるみを意味する語として理解されていたこと、及び「teddy bear」の語は、米国第 26 代大統領であったセオドア・ルーズベルトが狩猟中に追い詰めた小熊を撃たずにその命を助けたという逸話と関連して理解されていたことが推認される。

しかし、そのような記載等から、直ちに、本件商標の登録査定時、我が国において、「テディベア」との語が一般的に知られていたと認めることはできない。

（４） 判断

以上のとおり、本件商標の登録査定前にテディベアに関する記載等のある雑誌、書籍、レコード、テレビ番組等があったことを考慮に入れたとしても、本件商標の登録査定時、我が国において、「テディベア」との語が一般的に知られていたとは認められず、また、一説に「teddy bear」の語の由来とされるセオドア・ルーズベルトの逸話も、本件商標の登録査定時、我が国において知られていたとは認められない。

本件商標の登録査定時に、我が国において、「テディベア」との語の意味内容及びセオドア・ルーズベルトに関する逸話が広く知られていたと認めることはできないから、商標法4条1項7号に該当するとする原告の主張は、その前提を採用することはできず、主張自体失当というべきである。

したがって、本件商標は、商標法4条1項7号に該当しない。

3 原告のその他の主張に対し

以上のとおり、本件商標は、商標法4条1項7号に該当せず、その商標登録は同号の規定に違反してされたものではないから、審決に違法はなく、その他の判断をするまでもなく、原告の主張は採用することができない。

念のため、原告のその他の主張について判断する。

(1) 原告は、本件商標の登録は、国際信義に反する旨主張する。

しかし、原告の主張は、以下のとおり失当である。すなわち、本件商標の登録査定時において、「teddy bear」の語は、我が国はもとより、英米においても、一般にセオドア・ルーズベルトを直ちに連想させるほど同人と密接に関連した語として認識されていたとは認められないし、ぬいぐるみの名称として知られていることを超えて、米国又は米国民と密接不可分な関係があるものとは認められない。

この点、確かに、英和辞典には、「teddy bear」の項目が掲載されたものが存在し、セオドア・ルーズベルトに関する逸話が掲載されたものも存在する。また、甲41によれば、テディベアとセオドア・ルーズベルトの関連を取り上げた書籍が存在する。しかし、乙1によれば、「teddy bear」と呼ばれる独特の形をした小熊のぬいぐるみは、ドイツの玩具会社シュタイフに由来するとの説があり、「teddy bear」の語の由来については、セオドア・ルーズベルトの逸話の他にも、イギリスのヴィクトリア女王の長子エドワード7世（愛称「テッド」）がロンドンの動物園の熊に興味を示したことに由来するという説もあることが認められる。また、乙5によれば、米国において、「teddy

bear」との文字は、様々な指定商品について商標登録されており、その指定商品には、「使い捨ておむつ」（登録番号１２１８４６２）、「女性用コート」（登録番号０９８７９３４）なども含まれていることが認められる。これらの事実を照らすと、「teddy bear」の語は、一般にセオドア・ルーズベルトを直ちに連想させるほど同人と密接に関連した語として認識されているとは認められないし、ぬいぐるみの名称として知られていることを超えて、米国又は米国民と密接不可分な関係があるものとは認められない。

その他、「teddy bear」の語又はその語によって表される独特の形をした小熊のぬいぐるみが、米国又は米国民にとって重要な意義を有するものと認めるに足る証拠はなく、また、本件商標の商標登録を認めることが、米国、若しくは米国と我が国との関係に影響を与えるものとは認められないし、我が国の公益を害したり、国際的に認められた一般原則や商慣習等に反するものとも認められない。

そうすると、本件商標の商標登録は、国際信義に反するとは認められない。

(２) 原告は、被告のライセンシーであるドウシシャは、「TEDDY BEAR」という文字を付した商品に「SINCE 1902」との文字を表示し、セオドア・ルーズベルトが小熊を助けたという逸話を連想させ、その商品が著名なセオドア・ルーズベルトに関係のあるような印象を与えてその販売を行っており、被告又はそのライセンシーは不正な販売方法を採用していると主張する。

しかし、原告の主張は、その主張に係る事実があったとしても、当該事実は、本件商標が商標法４条１項７号に該当するか否かについて、何ら影響を与えるものではなく、その主張自体失当である。

甲１８によれば、「SINCE1902」との文字は、「TeddyBear」との表示に併記され、「TeddyBear」との表示とともに、小熊のぬいぐるみの絵が描かれたクッキーの缶の蓋に付されたり、小熊のぬいぐるみを象ったタオルハンガーや小熊のぬいぐるみの描かれたタオルを収納した箱の上面等に付されてお

り、それらの商品の写真がカタログに掲載されていることが認められる。そして、「SINCE 1902」との文字は、セオドア・ルーズベルトの逸話を連想させるものであると解される。

しかし、仮に、上記の「TeddyBear」との表示の使用が、商標的使用に当たると解したとしても、前記のとおり「teddy bear」の語は、一般にセオドア・ルーズベルトを直ちに連想させるほど同人と密接に関連した語として認識されているとは認められず、米国又は米国民と密接不可分な関係があるものとは認められないこと、また、本件商標の登録査定時、我が国において、「テディベア」との語が一般的に知られていたとは認められず、セオドア・ルーズベルトの逸話や、その逸話が「teddy bear」の語の由来とされるとの説も一般的に知られていたとは認められないことに照らすならば、「SINCE 1902」との文字が併記されていることによって、本件商標が公序良俗を害するおそれがある商標に該当すると認定すべきことにはならない。

(3) 原告は、セオドア・ルーズベルト協会が「teddy bear」に対して知的財産権を有している旨主張するとともに、原告は、同協会から「teddy bear」の名称等の使用許諾を受け、その許諾に基づく商品化の同意を得ており、原告が「Teddy Bear Roosevelt」、「Roosevelt Teddy Bear」、その他の関連商標の登録出願を我が国ですることにも同意を得ており、同協会（原告が代理人）は、被告が本件商標により「テディベア」の語を独占することに反対していること、被告が、本件商標に係る商標権を有し、その権利行使をすることは、米国のセオドア・ルーズベルト協会の活動を妨害し、国際信義に反すること、我が国には日本テディベア協会（会員数約3000人、加盟店61店、加盟企業47社、加盟美術館10件）、合計12件のテディベア博物館（美術館）があり、インターネットの「Amazon」で販売されているテディベアに関する商品は合計203件見出されるように、テディベアは我が国に定着していることから、本件商標の登録は、商標法4条1項7号に該当する

などと主張する。

しかし、原告の主張は、以下のとおり失当である。

原告の主張は、要するに、セオドア・ルーズベルト協会から許諾を受けた原告のみが「teddy bear」、「テディベア」との語を商標登録し又は使用することができるとするものである。

原告は、本件の無効審判において提出した平成21年1月15日付け上申書（乙4）において、「そもそも『テディベア』の名称は現在アメリカで設立された同大統領を記念した『セオドア・ルーズベルト協会』が所有する名称であることは全世界で認められています。その日本の代理人であり『商品化事業』の展開と『商標登録』を委託されている請求人の『商標登録』の権利を認めない特許庁の判断については、大変請求人は不満に思っています。」と述べている。また、原告は、前記のとおり、セオドア・ルーズベルト協会から「teddy bear」の名称等の使用許諾を受け、その許諾に基づく商品化の同意を得て、原告が「Teddy Bear Roosevelt」、「Roosevelt Teddy Bear」、その他の関連商標の登録出願を我が国ですることにも同意を得ていると主張し、その主張に沿う契約書（甲8、甲52）、通知書（甲9）、同意書（甲10）を証拠として提出している。

これらの経緯に照らすと、原告の主張は、セオドア・ルーズベルト協会（いかなる知的財産権等を有しているかは明らかでない。）から許諾を受けた原告のみが「teddy bear」、「テディベア」との語を商標登録し又は使用することができるという趣旨を述べていることと理解される。

しかし、原告が述べる内容は、「テディベア」の名称等の使用を独占することは、日米両国の公益を損なうおそれがあり、国際信義に反し、その商標登録が商標法4条1項7号に該当するとの本訴における原告の主張と相矛盾するものであって、その点からも、採用することができない。

4 結論

以上のとおり，本件商標は，商標法４条１項７号に該当しないものと認められ，審決の判断に誤りはない。原告は，その他縷々主張するが，審決にこれを取り消すべきその他の違法もない。

よって，原告の本訴請求を棄却することとし，主文のとおり判決する。

知的財産高等裁判所第３部

裁判長裁判官

飯村敏明

裁判官

中平健

裁判官

上田洋幸

別紙 1

テディベアー
TEDDYBEAR